

単元名 つなぎ言葉のはたらきを知ろう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 接続する語句の役割について理解することができる。
 (3) 接続する語句の役割を理解し、使い分けようとする。

標準的な展開例

04010115_001

【教材名】 つなぎ言葉のはたらきを知ろう

(上 P. 81～P. 83)

【準備等】 画用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 つなぎ言葉のはたらきを知る。 ★つなぎ言葉のはたらきを知ろう。 ○教科書 (P. 81) の問題を考え、「だから」「しかし」の使い方をまとめる。 ○つなぎ言葉の役割について理解する。</p> <p>○教科書 (P. 82) の表を参考にして、教科書 (P. 83) の練習問題に取り組む。</p> <p>2 つなぎ言葉を使って短い文を書く。 ★つなぎ言葉を使って文を作ろう。 ○さまざまなつなぎ言葉を使って、文を作る。</p> <p>○作った文を発表し合う。</p> <p>○つなぎ言葉作文リレーをする。 ① 4, 5 人のグループに分かれる。 ② 一人目が初めの文を画用紙に書く。 ③ 教師がつなぎ言葉を一つ指定して言う。 ④ 二人目は教師が指定したつなぎ言葉を使って前の人に続く文を作り、画用紙に書く。 ⑤ 教師が次のつなぎ言葉を指定し、続けていく。 ⑥ できた文章を発表する。 ○学習を振り返る。</p>	<p>・「だから」「しかし」は使い方が違うことに気付かせる。 ・「つなぎ言葉」という用語を確認する。 ・つなぎ言葉を入れることで、内容と内容のつながり方がはっきりすることを押さえる。 【評】練習問題に取り組む活動を通して、つなぎ言葉の役割を理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・初めに例文を教師が提示し、提示された文に続く文を考えさせて、ノートに書かせてもよい。 ・ペアやグループでさまざまな意味のつなぎ言葉を使った文が発表できるようにしたい。 【評】つなぎ言葉を使って文を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書の問題だけでなく、接続語ゲームをする、例文作りをするなど、児童が興味をもって主体的に取り組むことのできる活動を取り入れながら伝えたい。</p> <p>・「いかそう」を読み、学んだことを今後にかそうとする意欲をもたせる。</p>

【 備 考 】